

ヒューマンエラーと プロのスキル

安部正敏*

医療行為は自動化が最も難しい分野であり、ヒューマンエラー防止には細心の注意を払わねばならない。外来陪席のポリクリ学生に患者取り違い防止を教育する観点から、初診患者にはフルネームを確認するようにしているが、正直、内心何とも無駄な行為に思っていた。ある時、入室した患者の名前を確認し診察を始めたが、予診医の記載では腫瘍を主訴とする患者であるが、どう見ても慢性湿疹である。我が診断能力の低さに眩暈を覚えた。が、患者は「いつもの部屋と違う」と。え？初診なのに何故？その時、扉が開き不安げな女性がこちらを覗く。何と2人は同姓同名であり、年齢も大きく違わない方であった！偶然とはいえ、改めて医療現場に潜む限りなく狭く深い隙間を見る思いであった。以前学会参加でホテルにチェックインする際、既に安部正敏様は部屋にいる！などと言われた。偽物の登場に飛び上がらんばかりに驚いたが、満室！を繰り返すフロント嬢はとにかく喫茶室に！と時間稼ぎの策に出た。コーヒーを飲み終わる頃、別の部屋であるが用意できた（満室の筈では？）由。重複した理由を聞くと、同姓同名で同年齢、あまつさえ勤務先まで同じという。筆者はまだ宿泊カードを書いておらず、「ああ！JRの方でしたか？」などとカマをかけると「そうです！こんな偶然私も



初めて！」とぬかした。誰が騙されるものか！

ところで鉄道はヒューマンエラー防止システムが幾重にも施されている¹⁾が、路面電車はシステム構築が難しく、運転士の技量に頼る部分が多い。路面電車の最高速度は、速やかに停止できる時速40キロに制限されているが、路面電車は伝統的に速度計がない。この為、運転士は体感でピタリと時速を判断する技量が求められる。実際免許試験の際には、時速32キロで運転して！などという実技試験があり、見習いの頃は周囲の景色を手掛かりにして連日半徹夜で勉強するそうである。

路面電車は観光客にも人気があり、「のんびり走る路面電車」と「るぶ」に評される。しかし、運転士は自在に走る自動車に目を光らせ、安全輸送のため絶えず自らのヒューマンエラーと絶えず戦っており、のんびりには程遠い緊張の中で仕事をしている。小学生時代を長崎で過ごした筆者は、毎日路面電車です通いをした。「気をつけていかんね²⁾」「もう帰ると？³⁾」いつしか顔見知りになった運転士は、熟通いの小学生を温かく優しく気遣ってくれた。運転士の厳しさなど知る由もない無邪気な小学生は、気楽で楽しい仕事と誤解した。だが、同時に電車への興味の出発点がここにある。まだ眠る未来を知らぬ小学生は、人生のレールの先に、この憧鉄雑感が待つことなど知る由もなかった。そして今、小児患者に極力親切にしようという心を決めている。医療の理解者を一人でも増やす為に…☒

1) 安部正敏：皮膚臨床，54：1030，2012

2) 長崎の方言で「気をつけて行っておいで」

3) 長崎の方言で「もう帰るのですか」

* Masatoshi ABE, 医療法人社団 廣仁会 札幌皮膚科クリニック, 褥瘡・創傷治癒研究所

☒の説明：長崎電気軌道。120円均一で市内を結ぶ。観光客利用も多い。最新鋭の低床車から昭和25年製(写真)までバラエティーに富む電車はいつも満員である。